



2021年1月 第19巻 第1号

かく語りき—聖人の言葉

霊性の実践とは、心を絶えず神の蓮華の御足におき、神の思想に没入することです。

…ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー

親愛なる信者たちよ、愛と信仰があれば、私、すなわちアートマンに達することができる。私への信仰は、低いうちの最も低いものさえも清らかにする。

…シュリー・クリシュナ

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・お知らせ
- ・2021年2月、3月の予定
- ・2021年元旦 「シュリー・ラーマクリシュナのカルパタルの日のショー・メッセージ」
- スワミー・メーダサーナンダ
- ・2021年1月逗子 ホーリー・マザー・

シュリー・サーラダー・デーヴィー
168周年生誕祝賀会の報告

・2021年1月逗子 ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー
168周年生誕祝賀会

「ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーは、こうして信者を守る」

スワミー・メーダサーナンダ

・クリスマス・イヴ 講話

レオナルド・アルヴァレス

・忘れられない物語

・今月の思想

今月の予定

～お知らせ～

2021年1月より、毎週水曜 朝

8:30 から 45 分間、

「ウィークリー・ウパニシャッド・クラス」がスタートしました。

どなたでも参加できますが、協会出版のテキスト「ウパニシャッド」が必要です。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

2021年2月、3月の予定

・2月の生誕日

スワームー・ヴィヴェーカーナンダ
2月4日(木)
スワームー・ブラフマーナンダ
2月13日(土)
スワームー・トリグナティターナンダ
2月15日(月)
スワームー・アドブターナンダ
2月27日(土)

・3月の生誕日

シュリー・ラーマクリシュナ
3月15日(月)
シュリー・ガウラランガ
(シュリー・チャイタンニヤ)
3月28日(日)

・2月、3月の協会の行事

<2月のスケジュール>

2月24日(水) 8:30~9:15 ウィーク
リー・ウパニシャッド・クラス

詳細は[こちら](#)

★Zoomのみ(後日講義の映像をHPにア
ップ)

2月28日(日) 14:00~16:00 逗子午
後例会(瞑想と靈性の生活)

テキスト「瞑想と靈性の生活I」は

[こちら](#)

講話のまとめは [こちら](#)

★Zoom、ライブストーリーミング、メー
ルによるQ&A有

<3月のスケジュール>

3月03日(水) 8:30~9:15 ウィーク
リー・ウパニシャッド・クラス

詳細は[こちら](#)

★Zoomのみ(後日映像をアップ)

3月06日(土) 10:30~12:00 インド
大使館バガヴァッド・ギター聖典講
義

テキスト「バガヴァッド・ギター」

[こちら](#)

講話のまとめは [こちら](#)

★後日映像をアップ

3月10日(水) 8:30~9:15 ウィーク
リー・ウパニシャッド・クラス

詳細は[こちら](#)

★Zoomのみ(後日映像をアップ)

3月14日(日) 14:00~16:00 ラーマ
クリシュナの福音勉強会

テキスト「ラーマクリシュナの福音」

[こちら](#)

講話のまとめは [こちら](#)

★Zoom、ライブストーリーミング、メー
ルによるQ&A有

3月17日(水) 8:30~9:15 ウィーク
リー・ウパニシャッド・クラス

詳細は[こちら](#)

★Zoomのみ(後日映像をアップ)

3月21日(日) シュリー・ラーマクリ
シュナ生誕祭

※詳細は後日HPにてお知らせします。

3月28日(日) 14:00~16:00 逗子午
後例会(瞑想と靈性の生活)

テキスト「瞑想と靈性の生活I」は

[こちら](#)

講話のまとめは [こちら](#)

★Zoom、ライブストリーミング、メールによるQ&A有

＜ハタヨガ・クラス＞

日程：通常 毎月 第1、第2、第4

土曜日

時間：10：30～12：00

ヴェーダーンタ協会のハタ・ヨーガ教室生徒募集！

体験レッスンもできます。

※現在予定が不規則ですので、ヨーガ教室ホームページよりお問い合わせください。

2021年1月 元旦 午前11時 「シュリー・ラーマクリシュナの カルパタルの日のメッセージ」 スワミー・メーダサーナンダ

皆さん、こんにちは。今日は特別な日です。今年の正月は例年とは少し違います。例年、大みそかには、多くの人がさまざまな神社や寺院を参拝するので、日本の列車は一晩中運行しています。しかし、コロナウイルス感染予防のための規制が改めて出されたため、終夜運転はありませんでした。

元旦には、去年のことをいろいろと反省してください。そして、今年の新しい誓い、特別な誓いを立ててください。また、祈りを捧げましょう。これが新年を祝うやり方です。新しい年を迎えた今日、ここにいる私たちにとっ

て特別な日であるだけではありません。シュリー・ラーマクリシュナのカルパタルの日として、世界中のラーマクリシュナ僧院でも特別な日なのです。カルパタルとは、満願成就の木のことです。ではなぜ、カルパタルの日と呼ばれているのでしょうか？ なぜなら、1886年1月1日、その日、シュリー・ラーマクリシュナは、特別な霊的な力を明らかにして「満願成就の木」となり、コシポルのガーデンハウスに見舞いに訪れた最愛の信者たちの霊的な望みを満たしたからです。

日本の正月は、伝統行事として主に神社や寺院に参詣し、家族の健康、富、教育、結婚などの一般的な願いをするイメージです。しかし、シュリー・ラーマクリシュナのカルパタルの日は、霊的な望みがかなう日なのです。あなたはそのために何を祈りますか？ 私たちの日常的な願いは、比較的容易に満たすことができるでしょう。しかし、この日は、シュリー・ラーマクリシュナへの霊的な願い、もっと進みたい、もう少し良くなりたい、もう少し純粋になりたい、より霊的になりたい、という願いが特別にかないます。カルパタルの日にはそのような願いが叶う、という信仰を持ってください。

シュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの霊的助言や聖典の話を聞くだけでは、あま

り役に立ちません。聖典を読んでその意味を理解することはできるし、実際理解している人も多くいます。しかし、霊的な教えを日常生活で活かせるまでに身につけることは、非常に難しいです。逗子本部での月例講話で4回にわたる『霊的生活を身につける重要性』についての講話が終わったところですね。その中で、霊性の教えを身につけるためのアドバイスをしました。霊性の教えを身につけることだけが、ハートを清らかにすることができます。その講話はニュースレターに連載されたので、いつでもホームページからダウンロードできます。

コロナウイルス（COVID-19）の症例数が増加し続ける中、日本政府は、皆がマスク着用、人と会う際には距離を置く、外出自粛、などに真摯に取り組むことで、感染症や入院が爆発的に増えることを防ぐように、と発表しました。

このような状況下では、健康と安全が優先されるべきなので、逗子協会の霊的プログラムのために外出することすらよくありません。だから、信者の皆さんの心的霊的サポートを続けるために、日本ヴェーダーンタ協会では毎月のスケジュールを見直しました。ほとんどすべてのプログラムを生配信しているので、自宅でパソコンや携帯電話から見るすることができます。生配信情

報を含む毎月のスケジュールは、ホームページと毎月のニュースレターに掲載されています。

最後に、信者の皆さんは昨年、日本ヴェーダーンタ協会のプログラムに非常によく協力してくださいました。皆さんがしてくださったすべてのことに心から感謝します。シュリー・ラーマクリシュナとホーリー・マザーの恩寵により、ウイルスの状況が早く収束することを祈ります。また、今年の皆さんの健康と安全を祈ります。私たち皆にとって、今年はより楽になり、日常を取り戻せますように。



2021年1月逗子

ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー168周年生誕祝賀会の報告

1月17日（日曜日）、日本ヴェーダーンタ協会では、ホーリー・マザー・シュリー・シュリー・サーラダー・デーヴィーの生誕168周年を祝った。今年

の祝賀会は、コロナウイルスの規制が再び出たので、逗子本館二階の祭壇にて行われた。



祭壇は花々で飾られ、新鮮な果物やスイーツが供えられた。シュリー・ラーマクリシュナ、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの写真には花輪がかけられ、シュリー・サーラダー・デーヴィーの写真には、花輪の下に祝いの濃いピンクの布が施された。

午前11時、スワミー・メーダサーナンダとスワミー・ディッヴィヤーナターナンダによるプージャが始まった。ディッヴィヤーナターナンダジーが所定の儀式の奉納と五大構成要素を捧げるアーラティをする中、メーダサーナンダジーはマントラを唱えディッヴィヤーナターナンダジーを補佐した。

メーダサーナンダジーはその後、「ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーは、こうして信者を守る」という講話を英語で話し、レオナルド・アルヴァレスさんが日本語に通訳した。この講話はライブストリーミングにより配信された。以下はその内容です。



2021年1月逗子 ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー 168周年生誕祝賀会

「ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーは、こうして信者を守る」

スワミー・メーダサーナンダ

ホーリー・マザーの力

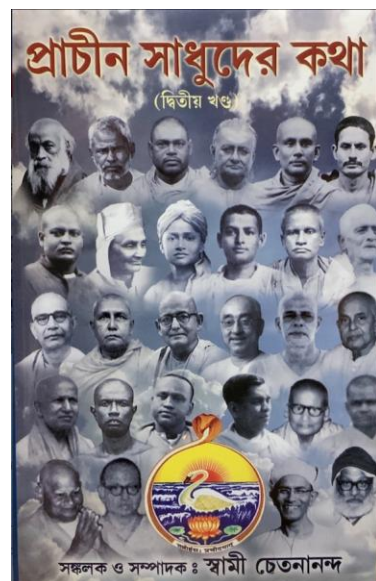
今日は、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーがどのように信者を守るか、ということについて話をしたいと思います。ホーリー・マザーの生涯はとても謎に満ちていました。この謎、神秘というものは、私たちが見ても説明できないことを言います。スワミー・プレーマーナンダが述べたように、シュリー・ラーマクリシュナは素朴な生活を送りながらも特別であるという事実は、シュリー・ラーマクリシュナがサマーディに入った時に明らかになりました。サマーデ

イを見た訪問者たちは、シュリー・ラーマクリシュナが本当に非常に特別である、ということが分かりました。なぜなら、本当のサマーディに入ることは、真にまれな現象だからです。プレーマナンダジーはホーリー・マザーについても言及しました。ホーリー・マザーも多くの霊的な体験や気分を経験をしたけれど、他の人に気づかれたり理解されることはほとんどなかった。

何世紀にもわたってインドの女性は「パルダ」という習慣を守っていました。他人に見られないように、顔をベールで隠すのです。ホーリー・マザーご自身も、さまざまな人の前に出るときは、サリーをベールにして顔を隠しました。ホーリー・マザーにとってこれは、ある意味で規範や習慣に従うためでしたが、もう一つ、パルダは、マザーのサマーディや霊的な経験を他者の視線から遮るのにも役立ちました。ベールに隠されていたので、ホーリー・マザーの霊性の深さを外から見るだけで理解することはほとんどできませんでした。一方で、先ほども述べたように、シュリー・ラーマクリシュナの特別な霊性を見ることは難しくはありませんでした。ホーリー・マザーの場合、並外れた霊性の外的な兆候はほとんどありませんでしたが、マザーは本当に特別で、その霊性は計り知れませんでした。

ホーリー・マザーの自叙伝を書いたある伝記作家は、本質的なことを次のように例えました。通りに沿って高压注意の警告が書かれた電柱があると、そこには高压電力がケーブルにどっと流れることが分かりますが、別の部分のケーブルは絶縁体のカバーすらないむき出しのワイヤーは、外からちょっと見ただけはどれほど強い電気が流れているのかわかりません。しかし、一見安全そうに見えるそのケーブルに触れたら、すぐに灰のようになってしまうでしょう。

ある僧の思い出



私は最近、ラーマクリシュナ・ミッションの初期の僧侶たちの回想録を読みました。ベンガル語で書かれた上下二巻のその本は、アメリカ・ミズーリ州セントルイスのヴェーダーンタ協会のスワミー・チェタナーナンダが話を収集したもので、非常に面白くて感動的です。この本は、私の神聖な交わ

りのよき代用品となっています。この本の表紙には、本に収められている回想録の僧侶たちの写真が載っています。[マハーラージは第二巻を見せられる] 今日はその中からいくつかお話しします。

スワミー・シャンターナンダという僧侶がいました。シャンタは穏やか、静かという意味で、シャンティつまり平安という言葉の源です。彼は高い魂で常に聖音オームが聞こえていました。シャンターナンダという名は、シャンタとアーナンダの組み合わせで「穏やかさと静かさの至福」となりますが、実際とても穏やかで静かな僧侶でホーリー・マザーの献身的な侍者の一人として仕えていました。イニシエーションもホーリー・マザーから受けました。シャンターナンダジは多くのラマクリシュナ・ミッションに滞在しましたが、どの場所でも、特にベナレス(ヴァラナシ)で、非常に真剣に靈性の実践をしました。私はシャンターナンダジの晩年にベルル・マトで会ったことがあります。彼はスワミー・ヴィヴェーカーナンダ・ temple の向いにあった二階建ての小さな宿舎に住んでいました。住まいとした一階の小さな部屋でよく『ラマクリシュナの福音』の朗読を聞いていました。僧侶たちがシャンターナンダジのもとを訪ねると、聖音オームが君にも聞こえるかい、とたびたび尋ねたものでした。

シャンターナンダジが高齢になると、スワミー・シュリダラーナンダが侍者としての名誉を与えられました。シュリダラーナンダジの僧侶になる前の名はシャリルでした。シャリル・マハーラージは数か所のミッションでの奉仕を経て、2000年にオーストラリア・シドニーに赴任するまで、長年ラクノウ・センターの僧長を務めました。ベルルにいた当時まだ若かったシャリル・マハーラージはシャンターナンダジと親しくなりました。シャリル・マハーラージはためらうことなくシャンターナンダジに質問をしたり靈的なことならについての議論をしました。シャンターナンダジはかつてホーリー・マザーの侍者をしていたので、ある時、シャリル・マハーラージはシャンターナンダジに、「マザーがサマーディに入っているのを見たことはありますか」と尋ねました。年長の僧はまるでその質問が聞こえなかったように黙っていました。同じ質問を辛抱強く3回繰り返しても年長僧には届いていないようだったので、少し大声で尋ねました。シャンターナンダジは名前のおり、落ち着いて静かな方でしたが、若い僧侶が質問を繰り返すと、ついに非常に興奮して叫びました、

「おまえはマザーのことをどう思っているのだい？ マザーはまさにサマーディの経験を授ける方なのだよ。そ

れなのにサマーディに入った経験があるかどうかを尋ねるとは！ 今日この日、一体どれだけ多くの霊性の求道者と信者がサマーディの経験を得ようとマザーに祈っているだろう。それなのにおまえは私にそのような質問をするのかね？」



シャリル・マハーラージが、すみません、そのような質問をしたのは間違いでした、と言い、シャンターナンダジーが落ち着きを取り戻すのには、少し時間がかかりました。

このやりとりから、ホーリー・マザーの霊性の高さを垣間見ることができます。本当は、シュリー・ラーマクリシュナの言動はすべて、ホーリー・マザーの力のおかげでなされた、と申し上げたら、皆さんは少し妙に感じるでしょうか？ 神が人間に化身したとき、根本エネルギーの力で働きをする、とシュリー・ラーマクリシュナご自身が語りました。その証拠を考えてみましょう。私たちは皆、シュリー・ラーマクリシュナを礼拝しますが、シュリー・ラーマクリシュナご自身が礼拝したのは、ホーリー・マザーです。だから理論上は、ホーリー・マザーはシュ

リー・ラーマクリシュナよりも偉大と言えます。もしそうでなければ、なぜホーリー・マザーを礼拝したのでしょうか？ 加えて、ホーリー・マザーは少しも恥ずかしがらずにそれを受け入れました。つまり、シュリー・ラーマクリシュナという神人の礼拝を受け入れるほどのすごい力が、ホーリー・マザーにはあったと想像できます。

ガウル・ダシー（ガウリ・マー）というシュリー・ラーマクリシュナとホーリー・マザーの女性信者がいました。彼女はお二方をとても愛しており、たびたびドッキネッショルを訪れ、時々ホーリー・マザーのもとに滞在しました。子供にお父さんとお母さんのどちらが好き？とふざけて聞くことがありますが、賢い子供は両親を前にして何と答えるのでしょうか？ もちろん「両方大好き」ですね。しかし「お母さんはすごく怒るんだもん」という答えを聞いたこともあります。私が子供のころはお父さんがとても怖かったのですが、今はお父さんは子供にかなり甘くて寛大で、お母さんが叱り役のようですね。

さて、ある日、ホーリー・マザーもドッキネッショルにいるときに、シュリー・ラーマクリシュナはガウル・ダシーに「私の方が好きかい？ それとも（ホーリー・マザーを指して）彼女の方がもっと好きかい？」と尋ねまし

た。ガウル・ダシーの答えはとても興味深いものでした。「信者は困ったとき、クリシュナ様、クリシュナ様、どうかお救いください、と言う。私をお守りください、と言う。しかしクリシュナご自身が困ったときは、ラーダー！と呼ぶ」という歌で比喩的に答えました。

〔一〕 その答えから、ガウル・ダシーは本当は、ホーリー・マザーにより惹きつけられていた、ということは明らかです。

ホーリー・マザーがどれほど私たちを守ってくださっているか、という逸話をもう少しお話しします。ホーリー・マザーはいつも「恐れることはありません。あなたが困難な時は、『私にはお母さんがいる』とだけおっしゃい」と言いました。このことは、私たちを助けるために、私たちを守るために、救うために、マザーはいてくださる！という意味です。マザーはうわべだけで請け合われたのでしょうか？ 私たちが気づいていなくても、マザーは私たちを守り、救済するために、いつもそこにおられます。これは 100 パーセント本当のことです。

逸話 1

通称キシヨリ・マハーラージ、スワミー・パラメッシュワラーナンダの生涯から一つお話をします。キシヨリ・マハーラージはホーリー・マザーの存命中は侍者として、ホーリー・マ

ザーの生誕地ジャイランバティにいました。マザーが亡くなってからも、ジャイランバティに設立されたミッションのセンター長としてとどまりました。私はキシヨリ・マハーラージの晩年にお会いするという恩恵にあずかりました。

ある日、オリッサから有名な占星師がジャイランバティにやってきて、僧侶たちと面会しました。話をしているうちに、占星師の正確さを確かめようと、誰のホロスコープかを隠してパラメッシュワラーナンダの人生のホロスコープを見せて、占星師に意見を求めました。サッと読んだ占星師は、「あなた方は私をからかっているのですか？ この人はずっと前に死んでいます！ 約 30 年前に亡くなったはずですよ！ なぜ死んだ人のホロスコープを見せるのですか？」と言いました。パラメッシュワラーナンダは 25～26 歳で死ぬだろうと、出生星占いには出ていたにもかかわらず、まだ存命していました。

そのキシヨリ・マハーラージがラマクリシュナ僧団の見習い僧だったときの話です。最後の誓い（サンニャシン）を受けるには見習い僧を 8～9 年経験しなければならないという規則があったので、まだ受けていませんでした。キシヨリ・マハーラージは 24 歳のころ、死が近づいているのではない

か、という恐怖に突然圧倒されました。この恐れの原因が何かを突き止めることができなかつたのですが、内面、かなり心配でした。キシヨリ・マハーラージはそれで悩んでいましたが、その懸念を誰にも話さずに普段通りに仕事をしていました。ある日、排水溝に落ちて怪我をしたことが引き金となって、さらに死を意識するようになりました。そのことを本人から聞いたホーリー・マザーは、キシヨリに言いました。すぐにベルル・マトに行き、ラカル・マハーラージ（スワーミー・ブラフマーナンダ-初代僧団長）に会いなさい、そして早急にサンニャーシンのイニシエーションを受けるようホーリー・マザーから言われている、と伝えるのです、と。キシヨリ見習い僧はマザーが規則を曲げてまで言ったことに驚きながらも、マザーの望みをかなえようと、ブラフマーナンダジーに会いにベルル・マトに向かいました。

ベルル・マトでは、サンニャーシン（出家僧）になるイニシエーションの儀式は、シュリー・ラーマクリシュナの生誕祭、もしくはスワーミー・ヴィヴェーカーナンダ（スワーミージー）の生誕祭の時にのみ行われることになっていました。サンニャーシンのイニシエーションは、一年を通して無計画に行われることはなかつたのです。スワーミージーの弟子で年配僧であったシュッダーナンダジーも、ブラフマー

ナンダジーとキシヨリ見習い僧の会見の際に、部屋にいました。シュッダーナンダジーは、僧団には規則とやり方があるのに、なぜ特別に手配しなければならないのだと言って、キシヨリ見習い僧の申し出に反対しました。キシヨリ見習い僧は、この申し出は私の望みや願望ではありません、ホーリー・マザーからブラフマーナンダジーへ依頼するように言われたのでそれに従っているだけです、と言いました。それを聞いたブラフマーナンダジーはキシヨリ見習い僧に、スワーミー・サーラダーナンダ（シャラト・マハーラージ-僧団の初代書記でマザーの守人）のところへ行きたまえ、そしてイニシエーションを受けるためにコルカタに留まるのだよ、と言いました。キシヨリ見習い僧は、ホーリー・マザーはブラフマーナンダジーからイニシエーションを受けるように言いました、それがだめでも仕方ありませんが、サーラダーナンダジーにお願いすることはできません、と言って断りました。そこでブラフマーナンダジーはシュッダーナンダジーに、サンニャーシンになる儀式の日を決めて、シャラト・マハーラージにも出席してもらおうように、と言いました。最終的には、キシヨリ見習い僧のためだけにサンニャーシンになる儀式が行われ、スワーミー・パラメーシュワラーナンダとなりました。

ちなみに、その時から、キシヨリ・

マハーラーヂを圧倒していた死に対する恐れや思いは、たちまちすべて消えました。しばらくしてキシヨリ・マハーラーヂは、なぜそんなに早くサンニャーシンになるイニシエーションを受けるように言ったのかホーリー・マザーに尋ねました。するとマザーは「息子よ、あの時あなたは死ぬ運命にあったのですよ」と答えました。サンニャーシンになるイニシエーションを受けると、運命は変わると言われています。つまりホーリー・マザーはキシヨリ見習い僧の運命を知り、その運命を変えたのです。占星師が言ったキシヨリ見習い僧の運命は当たっていましたが、その運命はスワーミー・パラメーシュワラーナンダの運命とはなりませんでした。

逸話2

次は、先ほど紹介したシャリル・マハーラーヂ（スワーミー・シュリダラーナンダ）の話です。この話の当時、シャリル・マハーラーヂは、侍者としてベナレス（ヴァラナシ）でシャンターナンダジーと同室に住んでいました。その頃、シャンターナンダジーは少しずつ痩せはじめていましたが、ご自身の状態に気づいていませんでしたし、気にもとめていませんでした。シャンターナンダジーは愛情から、シャリル・マハーラーヂのために食事や飲み物を残しておきました。そのうちに、シャンターナンダジーは結核にかかっ

たことが分かりました。当時、結核の薬はまだ開発されておらず、カルシウムとタンパク質をたくさん摂取して多くの休息をとることだけがその養生法でした。シャンターナンダジーには病状を知らせることなく、ヒマラヤの静かな自然環境に囲まれた早期結核療養所に移る手筈が整えられました。

ベルル・マトの本部が手配をし、シャリル・マハーラーヂに同行を求めました。シャリル・マハーラーヂは結核のことをシャンターナンダジーには知らせませんでした。移動の日が来ると、シャンターナンダジーは「シャリルよ、なぜベルル・マトの本部は私をベナレスから別の場所に移動させたいのだろうか？」と尋ねました。シャリル・マハーラーヂは理由を明かすことなく、あいまいに答えました。一般的に僧侶は強烈な霊的雰囲気と長い伝統のあるベナレスに滞在することを好みます。療養所に着くと、スタッフが担架をもって迎えに来ました。担架を見たシャンターナンダジーは驚きました。担架で運ばれるとき、入り口の上の病院名を見て全てを理解したシャンターナンダジーはシャリル・マハーラーヂに言いました、「ああ、私は結核だったのですね」。シャリル・マハーラーヂは何も言いませんでした。

自然に囲まれ、有能なスタッフとトイレ付きの個室の宿泊施設はとても快

適でした。しかし入院後、シャンターナンダジーは非常に厳格になり、まったく話をしなくなりました。シャリル・マハーラージは結核だと知ってショックを受けたのかもしれないと思い、普段通りにシャンターナンダジーに伝えました。

数日たってもシャンターナンダジーは一言も話しません。三日間、シャリル・マハーラージはシャンターナンダジーほどの先輩僧が死を恐れるはずはないのに、そんなにもショックを受けるものだろうか、急に黙り込んでそのまま何もしゃべらない他の理由は何だろうか、と疑問が続きました。三日後、突然、シャンターナンダジーはほほえみながら「シャリルよ、元気かい？」と聞きました。

シャリルは「マハーラージ、この数日はどうされたのですか？ マハーラージはここに着いてから私に一言も話をなさいませんでした」と返答しました。

「私がこれから言うことを信じるかい？」とシャンターナンダジーは言いました。「結核にかかっていると分かった時、この治療法のない感染症を近親者にもうつしたのではないかと心配になったのだよ。私はお前に食べ物と飲み物を分け与えたことを思い出したので、お前も結核に感染したのではないかと、思ったのだ。私は年寄りだけ

れど、お前は若い。だからお前が結核で死ぬようなことがあれば、私は死んでも安らかに休めない。だからこの三日間、私は昼も夜もホーリー・マザーに祈っていたのだよ。私はホーリー・マザーに祈って祈って祈り続けたのです」

「昨夜の真夜中ごろにホーリー・マザーがあらわれて『息子よ、何か私に聞いてもらいたいことがあるのですか？ あなたはすでにすべてを手に入れたではありませんか、それ以外になにを祈ることがありましよう？』とおっしゃるので、この青年は私の面倒を見えています。私は、愛情からこの子と同じ皿から食べさせたので、結核がうつっていないかと心配なのです。もしこの子が結核で死ぬようなことがあれば、私は死んでも平安を持ってません。マザー、私の望みはシャリルが死ぬときには結核以外の原因で死にますように、ということです。マザー、これが私の望みです。すると、マザーは『わかりました！』と言って姿を消された。私の結核がお前にはうつらない、ということをお前が保証してくださったので、私は今、平安なのだよ」

シャリル・マハーラージも体重が減ったので検査をすると、感染症が見つかったので、本部はシャリル・マハーラージに病院を去るように言いました。一時は最悪の事態が懸念されましたが、

シャリル・マハーラージは適切な治療と食事のおかげですぐに回復しました。約30年後、シャリル・マハーラージはコルカタのウドボーダン（マザーの家）を訪問した際に、このシャンターナンダジーとの経験を語りました。シャリル・マハーラージはウドボーダンの僧侶たちに「ほらね、私は80代ですが、結核の影響を受けたことはありません」と言いました。実際、93歳で今もオーストラリアのシドニーでかなりお元気です。

逸話3

皆さんにお話ししたい三つ目の話は、コロナウイルスにまつわる現代の実例です。ラーマクリシュナ・ミッションの英語本の出版社であるアドヴァイタ・アーシュラマが印刷を依頼するトリオ・プロセスという印刷所があります。四人兄弟の三人がトリオ・プロセスの所有者ですが、そのうちの一人は腎臓移植など、数々の病気に何年も苦しんでいました。彼は弱っていたので、免疫は大幅に低下していました。そのために不規則な生活をしないように、仕事や活動や普段の生活にも細心の注意を払っていました。

彼は2020年6月に発熱し入院しました。そして検査の結果、コロナウイルスの陽性が判明したのです。彼の病状は急速に悪化し、肺容量の75パーセントが閉塞したため、呼吸はとても苦し

いものとなりました。医者は家族に、回復する望みはほとんどないのでもうすぐ死ぬことを覚悟しておくようにと言いました。

この紳士はアドヴァイタ・アーシュラマの僧侶たちだけでなく、ドッキネッショルにあるサーラダー・マトの尼僧たちとも知り合いました。彼は妻にサーラダー・マトの尼僧と、僧侶に連絡を取って、彼のために祈ってもらうようにと言いました。彼自身もホーリー・マザーに「マザー、マザー、マザー、どうか私をお救いください」と悲痛な思いで祈りました。

6月8日の夜、彼は年配の女性が病室のベッドの近くに立っているのに気づきました。きっと看護師だなと思ったものの、女性がマスクをしていなかったためその理由を尋ねました。答えはなかったので、彼は反対方向に寝返りました。それでもその女性はまだそこに立っていました。その後、彼の病状は急速に回復し、二日後のテストではコロナウイルスは陰性になっていました。医者たちは当惑しましたが、患者は信者でしたので、その夜の訪問者はホーリー・マザーご自身で、ホーリー・マザーの恩寵で救われたことが分かっていました。

つまり、信者を守り、助けます、というホーリー・マザー・シュリー・サ

ーラダー・デーヴィーの保証は、絵空事ではないのです。「恐れることはありません。困ったときはいつも『私にはお母さんがいる』とだけおっしやい」という言葉は本当に真実です。私たちはこのことを信じ、良い日も悪い日も彼女にお任せしなければなりません。これが、今日、ホーリー・マザーの生誕祭のメッセージです。

[一]『ホーリー・マザーの生涯』 69
頁

クリスマス・イヴ 講話 レオナルド・アルヴァレス



主イエスは「楽な宗教」を教えたのではありません。彼は言いました「地上に平和をもたらすために、私が来たと思うな。平和ではなく、剣を投げ込むために来たのである。私が来たのは、人をその父と、娘をその母と、嫁をその姑と仲たがいさせるためである。そして家の者が、その人の敵となるであろう」。(マタイによる福音書 10:34~36)

これは二つの意味に解釈できます。まず、真の霊的生活を送ろうとすると、いわゆる「身近な大切な人たち」が特に反対します。皆さんの多くは、両親、夫、妻、さらには子供から、激しく反対をされた経験があるのではないのでしょうか。二つ目の意味は、私たちは古い自分を手放し、新しい自分になる必要があるということです。これは、自分の古い傾向と戦うことを意味します。私たちは、大切な家族のような古い傾向を自分の生涯から締め出したいくありません。なぜならその傾向と自分を同一視してきたからです。私たちは欲望や怒りの感情から自分自身を切り離そうとしません。私たちはこれらがないと「私」がなくなると感じます。



これは主イエスのメッセージの過激な部分です。主イエスは、「あなたは罪の奴隷、さまざまな感情の奴隷のままにいなさい」、とは言いません。むしろ、「もしあなたの片目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい。両眼がそろったままで地獄の火に投げ入

れられるよりは、片目になって命に入る方がよい」(マタイによる福音書 18 : 9) と言います。

これが、主イエスがニコデモに次のように言った理由です。「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない。

(…) 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である」。(ヨハネによる福音書 3 : 3, 6) 別の時に主イエスは言いました、「私の国はこの世のものではない」。(ヨハネによる福音書 18 : 36) 同じように「だれでも私についてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、私に従ってきなさい」 (…)

「たとい人が全世界をもうけても、自分の魂を失ったら、なんの得になろうか」。(マタイによる福音書 16 : 24~26)

使徒パウロは言いました「主イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである。もし私たちが御霊によって生きるのなら、また御霊によって進もうではないか」。(ガラテヤ人への手紙 5 : 24-25) 主イエスと使徒たちは基本的に、人間の弱さを超越し、神の性質を取り入れるように求めます。ことを明確にするために主イエスはカペナウムのシナゴークで、群衆に向かって次のように宣言しました、「私と父とは一つである」。(ヨハネによる福音書 10 : 30)

いわゆる識者たちは、主イエスが神を冒瀆しているとして、石打ちにして殺そうとしました。その時、主イエスはダビデの詩篇から次のように引用しました、「あなたがたの律法に、『私は言う、あなたがたは神々である』と書いてあるではないか」。(ヨハネ 10 : 34) 私たちの生まれながらの権利である内なる神性について、旧約聖書では次のように述べられています、「神は人を、神のかたちに、神の似姿に創造された」。

(創世記 1 : 26, 27) そのかたちはまだあるにしても、似姿は、罪や、貪欲とエゴという否定的感情に隠れています。しかし、もし罪や貪欲やエゴなどを手放せば、私たちは初期のキリスト教徒が呼んでいた「新しい人(ホモ・ノウス)」の状態となるでしょう。そのためには旧人は霊人としての新人、いわゆる新しいアダムにその道を譲らなければなりません。腐敗した人類の代表である古いアダムは、新しいアダム、つまり完璧な霊人イエスと入れ替わり、人類の新しい模範となりました。主イエスは「君たち罪びとよ！ 生涯を罪びととして過ごしなさい！」とは言わず、「あなたは神聖です。あなたの神聖さを目覚めさせなさい」と言ったのです。これが、彼がラザロに「出てきなさい」(ヨハネ 11 : 43) と大声で言った本当の意味です。このように主イエスは、無知と死の眠りから、ラザロと私たちを呼びだしました。

したがって、主イエスは私たちの真の

存在の模範です。「家造りらの捨てた石が隅のかしら石になった。これは主がなされたことで、私たちの目には不思議に見える」。(マタイ 21 : 42)

旧約聖書では、人間の最高の模範はモーセとしてあらわされました。モーセはユダヤ人の指導者であり、人生のほとんどで禁欲を実践し、シナイ山で神の直接のビジョンを得、十戒を受け、そして人々を約束の地に導いた霊的に高い人でした。しかし、モーセがユダヤ人の兄弟たちを拷問したエジプト人男性を殺したのは確かだ、言われています。彼はまた、ファラオに説教せよ、という神の命令に従うことを拒否したため、神の怒りに火をつけ、神はモーセを殺そうとしたほどです。(出エジプト記 4 : 10-17, 24)

さらに、ユダヤ人がエジプトの支配から解放された後、砂漠に滞在しているときに、モーセはレビ人たちに黄金の子牛を崇拜した人々を殺すように命じ、3000人以上が犠牲になりました。(出エジプト記 32 : 28) 同様に、旧約聖書に描かれている神の擬人化されたイメージは、復讐と嫉妬の神です。神を喜ばせることができれば、あなたは祝福されますが、もし喜ばせることができなければ、必ず罰せられるのです。

これは、古代のユダヤ文明と中東文明に即した道徳理念、ひいてはその当時

の世界の理念をあらわしています。これらの宗教的な考えは、いくらかの普遍的な視野と価値観があったものの、彼らの神は他のすべての種族のいかなる神々よりも強力だ、という地域の伝統と信仰にほぼ制限されました。そのため、彼らの神は、彼らが他者を征服するように、また、より低い存在とされた敵から彼らを守るように、彼らを祝福します。

しかし主イエスにみる宗派主義を超越した新しい模範は、神ご自身が一人の人間として化身したもの、つまり完全な神と完全な人間両者のイメージです。これは彼が言ったことによく表現されています、「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。あなたを憎む者に善を行い、それでもあなたを使いあなたを迫害する者のために祈りなさい。こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである」。また、私たち一人一人に果敢に挑むように言います。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」。(マタイ 5 : 43-45, 48)

私はこの内部の変革をもたらす方法についてあまり詳しく説明できませんが、主イエスが言ったことから、次のよう

に要約することができます。

・第一に、何よりも神を愛し、人々の中に神を見て、人々を愛します。

・第二に、常に祈ります。「絶えず祈りなさい」と使徒パウロが言ったように。

(テサロニケの信徒への手紙 5:17)
そのためには、祈りの決まった習慣をつくり、自分の時間と心と体を神に捧げる特別な場を一日のうちに設けてください。その時初めて、教会、寺、自分の部屋以外で、別の時間に祈ることができます。これに関する良い実践は、どこにしようと神が常に共にいる、と想像することです。散歩に出かけたら、神と一緒に歩いていると想像してください、そうすれば心で神に話しかけることもできます。そして、自分が何をするときも、神の存在を感じるようにして、「神は私にこれをしてほしいのか、そうでないのか？」と自問してください。この方法は、私たちがブレないように助けてくれます。

高德なフランス人司祭の話があります。彼はよくパリの道を歩いていました。ある日、彼はどこかに行くためにバスに乗って乗車賃を払おうとすると、運転手に「何人ですか？」と聞かれました。司祭はためらうことなく「二人」と言いました。しかし、少なくとも物理的には、司祭だけしかいませんでした。彼は主イエスへの想いに没入して

いたので、主イエスが一緒にいるのを実際に感じ、それによってごく自然に「二人」と言ったのです。しかしながら、神はたんなる恩恵の与え主ではない、ということをお忘れなくください。ご存じのように、神は人類の幸福のために自分の息子を十字架にかけました。皆さんは、神が私たちにも試練を合わせないと思いますか？ ただし、十字架刑とは、本当は肉体の殺害ではなく、神の意志への自我の完全な服従を意味します。

・第三に、常に警戒していなさい。なぜなら、皆さんは、昔からの自己と傾向に対して、激しい霊的な戦いをしているのですから。それらに立ち向かうことは大変困難で、その際に心と共に悪魔のように振舞います。「私たちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである」(エフェソ 人への手紙 6:12) と使徒パウロが言ったように。

・第四に、慈善をしてください。最初 は、お金、所有物、食べ物への執着を手放し、可能な限り分かち合うように努めてください。多額のお金や多くの食べ物を差し出す必要はなく、それがちょっとした供儀になると確信したときに分かち合うべきなのです。このことで、エゴの感覚と執着から心と体が清められます。これはまた、他者のうちに神

を見るのにも役立ちます。

・第五に、毎日少しの修行を実践してください。修行のひとつとして、霊的な生活を送り続ける努力をすることです。例えば、瞑想や祈りの厳格なルーティンをしっかりとやり抜きます。修行の別の実践として、一回食事を抜くか、一度の食事の量を減らします。それは心のよくない傾向を抑える助けとなるからです。例えば、一般的なカトリック教徒の断食では、昼食には普段通りの食事を食べ、朝食と夕食を約1/4に減らします。もちろん痩せるのが目的ではなく、より祈りに満ち、より内向きとなり、神を知るためです。スワミー・ヴィヴェーカーナンダも修行について、次のような興味深い新しいアイデアを出しました。これまで人は修行の実践のために山に行ったが、今の修行はダンベルを使ったり、ジムに行ったり、体と心を、体の鍛錬で強く保つという形であるべきだ。なぜなら、すべての罪の源は弱さであり、すべての生命の源は強さだから。そして、「鉄の筋肉と鋼(はがね)の神経を欲せよ!」と私たちを励ましました。

以上のことから結論として、主イエス・キリストのメッセージを本当に理解したいと思う人は、『ラーマクリシュナの福音』とスワミー・ヴィヴェーカーナンダの『Complete Works』(スワミーの講話、手紙などの全集)を

勉強することを強くお勧めします。それらの本では神学の謎が、現実的に、しかも私たちのニーズに合うように現代の言語で、非常に明確に説明されています。



忘れられない物語

「蝶のまゆ」

ある男が蝶のまゆを見つけた。好奇心旺盛な男は、まゆを観察しようと家に持ち帰った。ある日、まゆに小さな穴が開いた。男は座って、蝶がその小さな穴から無理矢理抜け出そうと苦勞しているのを数時間眺めた。しばらくすると、まったく進展がなくなった。蝶はできる限りは進んだが、それ以上は無理なようだった。

それを見た男は蝶を助けようと、はさみでまゆを少し切り取った。そのおかげで蝶は簡単に出てこられたが、蝶の体は腫れていて、小さな縮んだ翼をしていた。

そのうちに、羽がだんだん大きく広がって飛び立つだろうと、男は見守った。

しかし何も起こらなかった！ 実際、蝶は残りの人生を腫れた体と縮んだ羽で這い回って過ごし、決して飛ぶことはなかった。

このせっかちで優しい男は、まゆの小さな穴を通りぬけるための蝶の奮闘は、まゆから出て自由になったときに飛ぶために、蝶の体から羽に体液を押し入れる自然の摂理だ、ということを理解していなかった。

人生では時として、奮闘は絶対に必要だ。人生を何の障害もなく過ごすことを自然が許せば、私たちは半端者のままだ。私たちは、強くなる可能性をつまれる。そして決して飛べない。

…生徒のための英語より

今月の思想

この世のあらゆる差異とは程度のことだ。種類ではない。ひとつであること（oneness）がすべての秘訣なのだから。
…スワーマー・ヴィヴェーカーナンダ

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp